

大河原農業改良普及センターだより

麦わらぼうし



【撮影：丸森町 令和4年8月23日】

スマート農業の推進

県では将来に向けて活力ある農業・農村が持続的に発展していくため、ICTやAIといった先端技術を活用した「スマート農業技術」の普及を推進しています。

管内では高齢化や人手不足といった課題を抱えながら、集落営農を中心とした園芸品目の導入が進んでいることから、普及センターではスマート農業の導入による省力化や生産性の向上の取組み支援を行っています。



重点活動

園芸振興を牽引する重点園芸作物の生産推進

県は令和3年度より「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」（令和3～7年度）を策定し、園芸振興施策を進めています。その中で仙南圏域として立地条件を生かし、果樹では、りんご、日本なし、ぶどう等の重点品目を定め、特色ある園芸産地を目指すため生産推進を行っています。

その中でも、令和2年から七ヶ宿町の荒井謙さんが自分の納得するワイン作りを行いたいという志を胸に、ワイン原料となる醸造用ぶどうの栽培に取り組んでいます。現在、醸造用として利用を考えているりんごやももの栽培も始めています。

普及センターでは、荒井さんの最終目標であるワイナリー設立にむけて、これからも支援を行って参ります。



【醸造用ぶどうの管理をする荒井さん】

筆甫地区の新たな特産品づくり

丸森町筆甫地区では、中山間地の特性を活かした「へそ大根」づくりが長年行われてきたことに加えて、新たに山菜類の栽培への取組を開始し、普及センターでは栽培技術への支援等を行ってきました。また、山菜の塩蔵や水煮など従来から農家が行ってきた一次加工品を商品化し販売を開始しました。現在、さらに多くの人に届けるため、味噌などの地域食材と合わせて加工した手軽に食べられる二次加工品の開発に取り組んでいます。加工品づくりでは、一般社団法人みのり（白石市）の佐々木氏の指導を受け、衛生や安全管理などについても学び、テスト販売に向けて準備を進めています。



【佐々木シェフによる現地指導】

地域を守る集落営農組織の確立を目指して

仙南地域では「人・農地プラン」の実質化や農地整備事業への取組により農業担い手の選定と農地の集積・集約化の動きが加速しており、普及センターでは地域の担い手の中心となる新たな土地利用型農業法人の設立の促進及び設立した法人の経営安定化を支援しています。対象の1つである角田市の高田萱場地区では農事組合法人の設立が計画されており、普及センターでは県事業「地域を守る、集落営農モデル支援事業」を活用し、民間専門業者にコーディネーター役を担ってもらいながら、法人設立に向けた話し合いを進めています。



【話し合いの様子】

特集：RTKシステムを活用したブロッコリーの機械化一貫体系の実証

令和元年東日本台風で甚大な被害を受けた丸森町において、中通り地区は丸森町役場の南側に位置し、被害が大きかった地域の一つで、令和4年3月に復旧工事が終わりました。同地区で被災後に組織された丸森中央集団転作組合は地域の農地を借受け、営農を再開させました。組合は復旧を契機に園芸品目の導入に取り組んでおり、普及センターでは、農地の条件に合った品目の選定や栽培技術支援を行っています。組合の主要品目であるブロッコリーに対しては、「省力化・軽労化」、「少人数で農地を維持」、「農地の効率的活用」など将来の営農のヒントにするため、機械化一貫体系を提案し、実証を行っています。



【RTKシステムを活用した
ブロッコリー機械化一貫体系実演会】

令和4年に宮城県と農業分野に関する包括連携協定を結んだヤンマーアグリジャパン株式会社、丸森町、県農業・園芸総合研究所と連携して、今後、活用が見込まれるRTKシステムによるスマート農業に取り組んでおり、真っ直ぐに成形された畝により、その後の中耕培土や防除の作業効率があがりました。今後は、機械収穫も予定しています。

導入にはコストがかかるため、一連の体系のメリットやデメリットを調査しながら、同地域の実情に合い導入すべき技術かなどを検討していきます。



左：【RTKシステムを活用して成形した畝】
右：【全自動移植機と半自動移植機の作業性を比較】

お知らせと話題

凍霜害を乗り越えて果樹の収穫を迎えました

大河原管内では令和3年4月に記録的な凍霜害が発生し、りんご、日本なしなど幅広い果樹で大きな被害を受けました。今年の4月も低温が発生しましたが、その後は天候に恵まれ、生産者の皆様の努力の甲斐あって、日本なしの収量等はほぼ平年並となっています。

しかしながら、近年の異常気象の影響で、今年は柿に形状異常果が発生するなど、予測できない被害も発生しています。自然災害への不安を払拭するため、収入保険に加入するなど、備えを万全にしましょう。



【令和4年産 日本なしの出荷】

令和4年度宮城県農林産物品評会・宮城県花き品評会

10月22日から23日まで、せんだい農業園芸センターを会場に宮城県農林産物品評会及び花き品評会が開催されました。管内からは、玄米、野菜、果物及び花きなど、計73点が出品され、7点が入賞しました。今回入賞された方々をご紹介します。受賞おめでとうございます！



【水稻（うるち玄米）】

2等（公益社団法人みやぎ農業振興公社理事長賞）

渡邊 長松（村田町）

3等 農事組合法人北向結ファーム（村田町）

【果実】

1等（農林水産大臣賞）

山家 一彦（蔵王町，日本なし）

【野菜】

1等（宮城県園芸協会会長理事賞）

横山 郁夫（蔵王町，里芋）



【花き】

金賞（宮城県議会議長賞）

佐藤 重喜（川崎町，ポットマム）

銀賞 山家 淳子（柴田町，ポットマム）

銀賞 平間 明夫（柴田町，ポットマム）

※敬称略

資材価格高騰について

県では「資材価格高騰等に伴う営農相談窓口」を設置し、営農継続などに不安を持つ農業者からの相談に対応しています。

また、農業者の負担軽減を図るため、化学肥料の低減に向けて取り組む農業者の肥料費への支援、有機農業や新規需要米としての米粉用米生産の取組などを支援しています。

相談窓口及び各補助事業の詳細は下記HPアドレスまたはQRコードから確認できます。なお、情報は随時更新します。



HPアドレス：

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/oksgsin-n/shizai-soudan.html>

管内で活躍する地域おこし協力隊員の紹介②

角田市地域おこし協力隊の吉川一利^{きっかわ}さんは、令和3年から角田市内で約90aの日本なし園について、園地の改善に取り組んでいます。樹形の改善など、複数年計画で取り組まなければならない困難な作業ばかりですが、これまでも日本なし栽培に取り組んでいた経験や、周囲の生産者等の協力もあり、作業はおおむね順調に進んでいます。徐々に収量の確保につながられるよう、精力的に活動しています。

【作業の様子】



発行：宮城県大河原農業改良普及センター

〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南129番1号（宮城県大河原合同庁舎内）

電話 0224-53-3519 FAX 0224-53-3138

e-mail oknokai@pref.miyagi.lg.jp

H P <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ok-nokai/>

